

Date 2007年

K.M

会津若松市

6月22日 AM 11:47 長女誕生 3010g ♡

私がここで「出産する」と決めた理由... 初めはとても単純なおい夫婦に「絶対に中嶋助産院で産んだ方がいい！」の言葉とどうしても、病院が嫌という2つでした。

順番の違う結婚だったから、とにかく慌ただしく過ぎる日々... 若松のクリニックで受けていた検診さえ遅くてばかり... 後期に入る前に1度中嶋さんに来なきゃと思っても旦那の仕事を難しい... や、とここで検診を受けたのは予定日6/13まであと1ヵ月という頃でした。優しい康乃先生のお話で変に焦っていた自分に気が付き、なんとも言えない安心感が心地良かったのを覚えています。

「赤ちゃんは産むのははやく、産ませてくる、これが決定的な言葉でした。じゃあ、もしも何かあっても病院がある！なんて考えもいらない。産まれてくるカがあるなら、私が赤ちゃんに協力してあげよう！ちょっとくらい、痛い思いをしなれば、きっと私は親にはなれない。そんな勝手な決意をして、陣痛が始まるまでの日々を過していました。

何もかもが初めてだから、何もかも急いでしまったのかな？「いつもと違う！」と思ったのが17日。母に電話したら、館岩から若松までの距離をすぐに来てくれて、旦那も義理の母も集まって不思議な一夜を過しました。夜が明けて18日、康乃先生に電話をして、助産院へ。「まだまだよおー！」と言われ想定外の館岩への里帰り。5分間隔だった陣痛も不規則になり、平気な顔で夕食を作り食べていました。19日も20日も同じように時間と痛みと周りからの「今日か？明日か？あさってにしろ！」のフォローと戦い続けるしかない中で、余りに苦しむ私を心配して仕事を休んで館岩まで来て一緒に居てくれた旦那に辛く当たる事もありました。車の振動が良い、体を動かかぬと良いと聞けば嫌と言わず付き合ってくれた。優しいが嬉しかった。

20日夜から、78分間隔の陣痛... 今までとは全然違う！

今度こそ産まれる！と来た21日も結局産まれず...「AM5:00まで
 待って産まれなければ、南会津病院へ行きましよう」聞きたくはか
 たら言葉を聞いたお母さんにショックで、はっきり「嫌...」と言ったのを
 覚えています。夜が明けてからは、正直言って、頭がおかしく
 なっていました。自分の口から出る言葉は今までと正反対の
 「病院に行く」。体が壊れてしまう夢を数分の眠りの中で見て。
 騒ぐ私に「壊れたら治してあげる」と康乃先生は言ってくれました。
 それからどれくらいの時間が流れて産まれてきてくれたんだかう...
 気付いた時には、「もうすぐ産まれるわよ」と優しい声が聞こ
 えて、頑張ったというより、本能なのだと思います。
 苦しいはずなのに、ずっと強い心音でいてくれた。この子に1番
 感謝しています。

この子が産まれるまで、首を長くして待っていた。お母さんに...
 そして、何よりも誰よりも、くじけそうなお母さんを助けてくれた。
 康乃先生、千ヨさん、ありがとうございます。

この出産は、私にとって、母にとっても、人生の転機になった
 はずです。天国にいる父にこれから私たちを見守っていて
 欲しい。

死を選ぶ事は1人でも、できるかも知れない。でも、産まれて
 くるのには、たくさんのお母さんの力を必要としている。だから、
 ように、この子にも教えてあげたい。

この出産に、関わった全ての人に、お疲れ様です。

康乃先生は、TVに出てくる産婆さんたちよりも、すごい人に映っ
 ています。また、機会があれば、お世話になりたいです。

千ヨさんみたいに、赤ちゃんが気持ちいい～って泳いで
 くれる沐浴を目標にしました！